



日本SPF豚協会だより

2022. 4
No.87

豚熱の流行と SPF養豚

日本SPF豚協会SPF豚農場認定委員会

委員長 **濱岡 隆文**

平成30年9月に26年ぶりに発生した豚熱の流行は今も収まることなく継続発生しています。豚熱を各地へ拡散させる原因となった野生イノシシ対策として食餌型ワクチン散布が行われているものの、決定打とならないまま感染イノシシの分布地域が広がりを見せ、リスクの高い地域では飼養豚に対するワクチン接種が始まり一時小康状態を保ったかに思われました。しかし、感染イノシシが分布する地域においてワクチン未接種の感受性豚を中心に散発的な発生が続き、2022年3月現在、養豚農場での発生は77例を数え、残念ながら当協会認定GP農場での発生が報告されるに至りました。そこで、改めてSPF養豚、すなわち生産環境から病原体の汚染を極力排除して、感染病等によるリスクを制御し、健康な豚を高い生産性で育てあげ、健全で美味しい豚肉を消費者に届ける、生産者にとってもWin,消費者にとってもWin,の養豚、私たちの目指すSPF養豚の原点を、感染症を科学し理解を深めることで再確認してみたいと思います。

農林水産省のHPにはこれまでの発生事例の国による疫学調査結果の概要が公表されています。それによると、発生要因となるような施設や管理の不備が見当たらない例もあるが、施設はしっかりしているが管理に何らかの不備があるもの、また、管理は十分にしっかりしていても施設に老朽化等の影響で不備が見つかるものなどがあります。よくある指摘は、管理面で

は手足の消毒、作業着、長靴の着替え、履き替えの不備など、施設面では野生小動物や鳥類が出入り出来る穴や隙間があるものなどです。こうした点が特記されるのはなぜでしょうか。

豚熱は感染症であり、病原体(豚熱ウイルス)が感受性のある宿主(豚・イノシシ)に感染して起こります。感染症の成り立ちを科学的な目で整理すると、次の三つの要素が揃う必要があることが解ります。まず、病気を起こす病原体がいること、その病原体に感受性を持つ宿主(動物)がいること、そして最後に病原体と感受性宿主とをつなぐ(媒介する)もの、すなわち感染経路があること、この三つの要素が揃った時に初めて感染症が発生します。逆に言えば、病原体、感受性宿主、感染経路のどれか一つでも欠ければ病気は起きない、或いは起きていた病気の流行は終息します。私たちは、感染症の成立にはこの3要素が必要という科学的原則に則った対策を講じることでその有効性を確保します。目の前の不都合を取り除く場当たりの対策、即ち科学的根拠に基づかない対策だけでは感染症対策は成功しません。

具体的に見てみましょう。私たちが普段から励行する「消毒」は、病原体を減らすために行います。これは病原体の感染リスクを直接低減させるもので最も基本的かつ普遍的な病原体対策ですが、消毒の難しい点は、個々の状況に応じて最適な消毒薬を選択し、効果が出る方法で行う必要があることです。

注意すべきは「消毒しているつもり」としか言えない不適切なケースが意外と多いことです。次は、ワクチンを考えてみましょう。ワクチンと抗生物質は会員の皆さんにとって欠くことのできない医薬品でしょう。少し脱線しますが、この両者の違いを知ることは重要です。抗生物質は細菌感染症の治療に使う薬で病気の家畜を治すための薬です。不必要に使い過ぎると耐性菌が生まれ効果が弱まるため適正な使用が求められていますので注意が必要です。一方、ワクチンは様々な感染症の予防に使う薬です。病原体に感受性をもつ宿主つまり豚熱の場合は豚とイノシシですが、豚熱ワクチンを接種すると体内に豚熱ウイルスに対する抗体ができ豚熱に抵抗性を持ちます。結果、その豚は感受性動物ではなくなりますので感染が阻止され、ワクチンは有効な感受性宿主対策として働きます。最後の感染経路対策は多岐にわたり複雑ですが、これを正しく理解することが重要です。病原体を媒介する役割を果たすものには、動物に係わる人と人が為す行為、イノシシやネズミ、カラスといった野生動物とその糞尿などの排泄物、飼料など畜産関連物品などがあります。更には畜産関連車両等が野外の汚染を車輪等につけて農場に持ち込むなど、間接的な役割を果たすものも沢山あります。これら感染経路を断ち切ることで感染症発生を防ぐことが出来ますが、それらがそう簡単でないことは容易に想像できるでしょう。感染経路対策の代表的なものは高病原性鳥インフルエンザ等の発生時に蔓延防止のため発令される動物や物品等の「移動制限」です。現下のコロナ対策での人流抑制やステイホームも基本は同じです。これは病原体が発見される以前から知られた人類の経験知ともいえるべき疫病対策の一丁目一番地でした。ただし、移動制限はできない場合も多く、畜産では飼料運搬車はその代表で、農場への出入りを止めることはできません。この場合、例えば主要道路に設置される消毒ポイントや農場出入口での車両消毒に加え農場では管理区域外から飼料を搬入するなど、病原体対策と

感染経路対策を組み合わせることで有効性を増す工夫が求められます。SPF認定農場での日常ですが、職員の出入り口での手足消毒やシャワーイン・シャワーアウト、交差汚染を防ぐワンウェイ原則、作業着や長靴の着替え、履き替えも目的は同じです。農場職員のように立入り規制が出来ない場合には、豚舎内に入り家畜との接点を持つ前に前述の対策を幾重にも実施し、病原体を媒介するリスクのある行動一つ一つを適正に管理し、隙間のない感染経路対策を構築することで感染症を防いでいます。なお、本稿では触れませんが、施設基準あつての管理基準であることを忘れてはいけません。

家畜は人が世話をしないと健康に育つことはできません。人が家畜と病原体を繋ぐ最も危険な存在であることを私たちは知らなければなりません。故に科学的根拠をもった感染症対策を予防の観点から日常管理に応用したのが、協会の認定基準であり施設に関する基準、管理に関する基準です。私たちが最も大事にすべきものだと考えています。皆さん、改めて目を通してみてください。豚の生産環境に病原体が入り込むのを防ぎ、病原体と豚をつなぐ感染経路を断ち切るためのルールであることが理解してもらえそうです。

SPF認定農場は豚の健康に関する損耗要因を極力排除した健全な生産環境を維持して健康な豚を育てることで高い生産性を維持し、健全で美味しい豚肉を届けることで消費者の支持を得て、安定した経営の実現をめざすものと考えます。その第一歩は、地道であっても科学的根拠をもって策定されている自分たちのルールを疎かにすることなく、健康な豚を育てるプロフェッショナルであり続けることではないでしょうか。今、感染症の時代とも言われる時代になって、私たちSPF豚協会が目指してきたことは間違いではなかったことが明白になりました。会員の皆様には、時代を先導してきたとも言えるSPF養豚への取り組みをご自身の誇りとして更なる発展を目指していただきたいと思います。

SPF豚セミナーを オンライン開催

1月26日(水)午後1時より、SPF豚セミナーをオンライン開催いたしました。当初はKKRホテル東京(東京都千代田区)白鳥の間を会場とし、オンラインとの併催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、会場は講師と事務局のみとし、オンライン参加限定といたしました。約60名の方にご参加いただきました。

坂口一平・協会副会長の司会のもと、北島克好協会会長の挨拶、藤田世秀協会専務理事による認定CM農場生産成績年次報告に続き、生産成績最優秀CM農場の表彰がありました。

前号でご紹介した通り表彰農場の表彰式については昨年11月に現地にて開催しております。

選考委員会委員長の講評に続いて、その模様を撮影した映像をご紹介いたしました。

総合生産成績部門最優秀賞農場・(株)広島ポーク(3年連続3回目の受賞)の永野雅彦社長は、受賞にあたり「素豚、餌、衛生管理、管理する人、この4つが揃わないと、いい成績というのは出せない。この四拍子が揃ったからこそこのような成績が出せたのだと思う。農場従業員が一生懸命日夜業務してくれていることにまずは感謝とお祝いを述べたい」と述べられました。

商品化頭数最優秀農場・(農)八幡平ファーム(7年連続9回目の受賞)の阿部正樹組合長は「7年連続9回目の受賞は大変うれしく、従業員をととても誇らしく思い感謝している。日頃からおいしい豚肉をつくりたいという思いで生産しているが、おいしい豚肉とは健康に育った豚でありそれが成績につながったのだと思っている」とコメント、また福島大輔農場長は「このような素晴らしい賞をもらったのも日々現場で作業する職員のがんばりがあってこそだと思っている。豚も多産系になり進化している。今まで通りではうまくいかないことも出てくるがこの受賞が自信になり、モチベーションアップにもつながっていると考えている。これからも飼養衛生管理基準を遵守しながら従業員一丸となって安全、安心でおいしい豚肉を消費者に提供していきたい」と述べられました。

続いて伊藤忠商事(株)畜産ビジネス課の山下剛史氏による「海



外産輸入豚肉の現状」と題した講演が行われました。オンラインでの講演となった山下さんは「国産豚肉生産量と海外産豚肉の輸入量推移」、「輸入豚肉の供給体制について①供給の不安定化(物流・疾病・コロナ・コスト増)②関税制度の変化に伴う環境変化(自由貿易協定)」、「輸入豚肉のトレンド情報①各社/各地域のブランディング事例②SDGs/アニマルウェルフェアへの取り組み事例」などをテーマに豚肉生産の海外事情についてわかりやすく解説、中で「コロナ禍、アフリカ豚熱の拡大等、さまざまな要因から2022年は輸入豚肉にとっては厳しい状況になると予測している。逆に国産豚肉にはチャンスでもある。TPP後の制度においてもコンビネーション輸入の位置づけは変わらず、安い豚肉が大量に流通する事態は考えにくい。欧米ではSDGs、アニマルウェルフェア、抗生物質低減等への取り組みはかなり進んでいる」などと述べられました。

最後に「豚肉の品質、とくにおいしさ評価について—SPFポークの付加価値評価に向けて」と題し食肉品質評価研究の第一人者である農研機構畜産研究部門の佐々木啓介氏による講演が行われました。佐々木さんは、おいしさの科学的エビデンスがいかに難しいかを具体的な事例を挙げて解説、「個人的なおいしさというのは素朴な感覚なので一旦横において、科学的とはどういうことか、どうすれば『SPF豚は一般豚とは違う』と言い切れるだけのデータが取れるかが重要」と述べられました。また「おいしさの科学的な考え方を理解できれば正しく活用できる、優劣よりも客観的な違いに着目する方が、科学的エビデンスが担保されやすく共存共栄の道となる」と述べられました。

コロナ禍において、令和2年度は開催を見送らざるを得なかったセミナーをオンラインとはいえ開催できましたこと、講師の方々、視聴いただいたの方々、関係各位に感謝申し上げます。

なお、セミナーの会長挨拶、生産成績年次報告、農場表彰関連については協会ホームページで公開しております。勝手ながら講演については視聴希望の会員限定と致しました。ご理解とご協力をお願いいたします。

SPF豚農場と飼養頭数の分布 (2022年3月現在)

表1 認定農場の分布

飼養規模(頭)	北海道	東北	関東	北信越	東海近畿	中四国	九州	合計	飼養母豚数
99以下	2	0	3	0	0	2	0	7	453
100～299	5	4	22	4	0	1	6	42	8,481
300～599	3	4	5	1	0	9	6	28	11,536
600～999	1	10	7	1	2	4	11	36	26,923
1,000以上	2	9	3	0	0	0	7	21	29,855
計	13	27	40	6	2	16	30	134	77,248
子豚育成・肥育専門	2	4	14	1	1	6	21	49	
合計	15	31	54	7	3	22	51	183	
飼養母豚総頭数	7,837	22,377	15,059	2,079	703	7,911	21,282	77,248	

表2 認定農場および飼養母豚数の推移

年度	2017		2018		2019		2020		2021	
	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数
北海道	13	4,439	13	5,618	13	6,597	13	7,653	13	7,837
東北	32	25,735	33	25,888	30	21,355	28	22,704	27	22,377
関東	42	14,594	42	14,974	41	14,997	40	14,890	40	15,059
北信越	8	3,140	8	2,885	7	2,502	7	2,345	6	2,079
近畿東海	2	682	2	720	2	729	2	738	2	703
中四国	14	6,898	15	7,111	13	6,797	13	6,724	16	7,911
九州	30	22,116	30	22,460	31	22,556	31	22,602	30	21,282
子豚育成・肥育専門	43		47		42		45		49	
全国	184	77,604	190	79,656	179	75,533	179	77,656	183	77,248

例年同様、やむを得ない事情により認定を停止している農場については、戸数は集計に含め、頭数は含めない。認定農場数にはGGP・G18農場および子豚育成・肉豚肥育専門農場を含む。前年度に比べ農場数・飼養母豚数ともにほぼ横ばいとなった。これは、GP農場の減少による減頭の一方で、CM農場の新規加入や増頭があったことによる。マルチサイト方式の農場が増加傾向にある。地域的には中四国地域での増頭がみられる。全国の飼養母豚数82.3万頭(令和3年2月現在、畜産統計)に占める認定SPF豚の割合は9.4%となった。

CM認定農場の生産成績 (2021年度)

表1 一貫生産農場

	件数	母豚数	生産指数	農場回転数		農場飼料要求率		出荷頭数 / 母豚		A 薬品費 / 肉豚	
	101	平均		実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数
基準値			100.00	1.70	15.00	3.19	25.00	21.35	40.00	286	20.00
A	26	689	125.95	2.02	17.79	2.98	26.67	25.62	47.99	93	33.50
B	25	643	111.33	1.82	16.08	3.14	25.39	22.77	42.65	183	27.20
C	25	589	101.11	1.73	15.25	3.16	25.23	23.08	43.25	323	17.38
D	25	342	90.79	1.66	14.61	3.24	24.63	20.92	39.20	395	12.35
最高成績			137.43	2.31	20.38	2.52	30.27	28.52	53.44	0	40.00
最低成績			81.59	1.10	9.69	3.58	21.95	17.87	33.48	445	8.89
平均値		567	107.48	1.81	15.95	3.13	25.49	23.12	43.32	247	22.71

表2 繁殖専門農場-II (分娩・離乳後、子豚を育成し出荷している農場)

	件数	母豚数	生産指数	分娩回数 / 年		離乳頭数 / 母豚		出荷子豚数 / 母豚		A 薬品費 / 子豚	
	12	平均		実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数
基準値			100.00	2.30	20.00	22.53	20.00	21.43	40.00	160	20.00
A	3	939	126.03	2.33	20.28	27.26	24.20	25.50	47.61	48	33.95
B	3	1,145	119.84	2.45	21.29	28.04	24.89	27.10	50.58	135	23.08
C	3	673	105.22	2.29	19.90	23.36	20.73	23.23	43.36	150	21.23
D	3	898	92.91	2.26	19.65	22.39	19.88	20.76	38.75	203	14.63
最高成績			126.57	2.51	21.83	30.30	26.90	29.08	54.28	18	37.75
最低成績			87.42	2.12	18.43	19.49	17.30	18.22	34.01	240	9.99
平均値		914	111.00	2.33	20.28	25.26	22.43	24.15	45.07	134	23.22

表3 肥育専門農場-II (繁殖専門農場-IIまたは子豚育成農場から子豚を導入し、肥育している農場)

	件数	出荷頭数	生産指数	農場飼料要求率		出荷率		A 薬品費 / 肉豚	
	15	平均		実績	指数	実績	指数	実績	指数
基準値			100.00	3.30	55.00	97.50	25.00	126	20.00
A	4	8,179	120.56	3.08	58.71	99.20	41.99	127	19.86
B	4	10,350	107.61	3.32	54.76	97.92	29.20	103	23.64
C	4	10,201	97.30	3.11	58.17	97.17	21.66	142	17.47
D	3	3,583	82.22	4.33	37.87	96.96	19.65	97	24.69
最高成績			130.30	2.61	66.53	99.50	44.95	16	37.48
最低成績			80.87	5.42	19.67	95.50	4.95	199	8.41
平均値		8,378	103.23	3.40	53.34	97.87	28.69	119	21.20

表4 肉豚または子豚1頭あたりA薬品費使用

一貫経営

薬品費 / 肉豚	農場数	平均金額
100 円未満	20	41
100 円～ 199 円	19	155
200 円～ 299 円	19	249
300 円～ 399 円	28	361
400 円～ 450 円	15	424
最高		0
最低		445
上位 25%の平均		93

繁殖専門農場 (繁殖-II)

薬品費 / 子豚	農場数	平均金額
100 円未満	5	58
100 円～ 199 円	4	161
200 円～ 250 円	3	227
最高		18
最低		240
上位 25%の平均		48

肥育専門農場 (肥育-II)

薬品費 / 肉豚	農場数	平均金額
100 円未満	6	66
100 円～ 200 円	9	153
最高		16
最低		199
上位 25%の平均		127

発泡消毒は聞いたことがあっても実施したことがない農場が多いようです。この技術は米国から我が国の食品工場に1990年代に入った技術とされ、消毒液を泡状に噴射することが特長です。泡は被消毒物体に付着し、流れ難く、積み重なるという性質があります。動力噴霧機で消毒薬を噴霧するのと異なり発泡消毒では垂直な壁面にも材質により数分～数十分間付着して消毒力を発揮する時間が延長します。

具体的な方法は消毒薬濃度を通常使用する濃度より10倍濃くし、発泡剤は通常量(例200倍、0.5%)添加し、噴霧量は泡をマーカーにして1/10にすることが基本です。この方法は消毒薬の使用量とコストは同じですが、使用水量が少なく、作業時間も短縮できます。最大の特徴は消毒薬の濃度を濃くして使用する点です。消毒効果は先ず薬剤濃度、次に菌との接触時間(限界あり)に関係するので相乗的に高い除菌効果が得られます。

誤解の一つ目は消毒薬を通常濃度で発泡消毒することです。接触時間の延長はできますが高濃度の消毒薬による効果は期待できず、多量の発泡剤が要ります。

誤解の二つ目は消毒薬の使用量を控えめにするため発泡化することですが、似た理由で除菌効果の向上は期待できません。図1は3種類の細菌に対して逆性石けん液(DDAC) 500倍液を平米当たり2L動力噴霧と500倍液を0.2L発泡噴霧した結果です。図2はサルモネラ菌に対する同様な実験結果です。

菌種により除菌効果は異なりますが高濃度液の発泡消毒が効果的なことが分かります。

次に重要な点は、消毒薬に添加する発泡剤は何でもよい訳ではありません。よく使われる逆性石けん液は陽イオン性なので発泡剤も陽イオン性のKMフォームや非イオン性のフォームアップを用います。しかし、複合塩素剤ビルコンS、次亜塩素酸ソーダ、ヨーソ剤、グルタ製剤、過酢酸製剤ビネパワー等は陰イオン性なので陰イオン性の発泡剤(パワーフォーム等)

を使わないとイオン拮抗して消毒効果が失われます。フォームアップはビネパワーに添加すると陽イオン性を示すので懸念があります。表は各種発泡剤のコストや発泡結果です。

最後に、混合溶液の噴霧には動力噴霧機かエアークンプレッサーを使用しますが、各々専用の発泡ノズルが必要です。後者は発泡性が良い特徴があります。

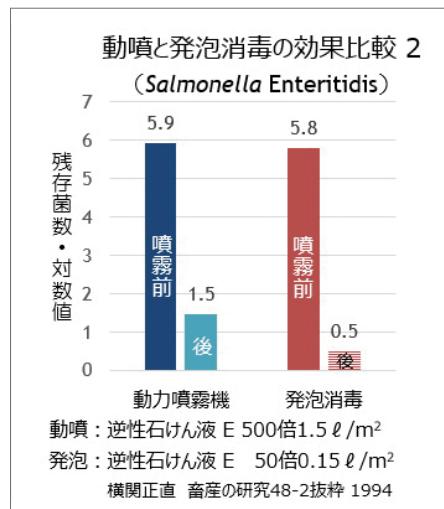
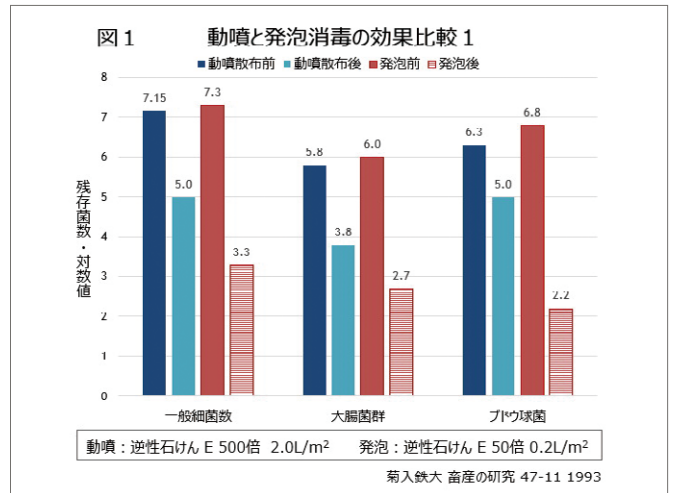


表 過酢酸製剤ビネパワーに添加した場合の発泡剤別 コストと発泡性

発泡剤名	規格 ℓ	価格例 (税別)	希釈 倍率	発泡剤単価/溶液1L (1Lに溶かす量)	ビネパワー 希釈倍率	発泡性 (圧搾空気)
1 パーサン・フォーム	3.8	15,000	33.3	¥119 /30ml	600	++++
2 Y3フォーム	5	10,900	300	¥7.3 /3.34ml	600	++
3 パワーフォーム	10	11,500	200	¥5.8 /5ml	600	++++
		11,500	200	¥3.8 /3.34ml	600	++
4 フォームアップ	10	12,500	200	¥6.3 /5ml	600	++++
5 KM・フォーム	10	8,500	200	¥4.3 /5ml	NT	NT

* 1,2,3は陰イオン性、4は非イオン性
 5は陽イオン性のため使用不可

陰イオン製剤用発泡剤
 パワーフォーム 200倍(0.5%)
 噴霧機 (エアークンプレッサー)
 211010ABC/miyake



第9回

農場バイオセキュリティ強化のための最新情報



発泡消毒

アニマル・バイオセキュリティ・コンサルティング(株)

三宅眞佐男

プロのシェフおすすめ、カンタン、おいしいSPFポークレシピ



SPF豚の チーズミートボール トマト煮込み

●レシピ提供・どうなん de's (北海道上磯郡木古内町)

シェフ ^{まなか} 藤田茉奈香

春本番、新しい生活のスタートという方もおられる時期です。なにかとあわただしい日々ですが、おいしい豚肉料理でリフレッシュしてはいかがでしょうか。チーズとトマトの相性抜群のミートボールのご紹介です。手間をかけずに本格的な味わいにも。ぜひお試しください。

●材料 ● (2～4人分)

SPF豚ひき肉 500g
卵 1個
カッターチーズ 50g
オリーブオイル 少々
塩こしょう 適量
トマトソース (市販) 500g

●つくり方 ●

- ① 豚ひき肉に卵を加え、塩コショウしてよくこねます。
- ② ①を食べやすい大きさにとり、真ん中にカッターチーズ

を包むように丸く成形します。

- ③ オリーブオイルをひいたフライパンで②を焼き色をつけるように焼きます。
- ④ ③のフライパンにトマトソースを入れて塩こしょうをし、中に火が通るまで煮込みます (10～15分)
- ⑤ 盛り付けて完成です。

★藤田シェフからのアドバイス

たくさんこねてしっかり繋げ、チーズが隠れるように包むのがポイント。お好みで粉チーズやバジルのをのせると本格的になります。お子様と一緒に作れます。

認定情報

●2022年3月認定農場

(有効期間：2022年3月10日から2023年3月末日まで)

岩手県・(農)八幡平洋野牧場、秋田県・(株)シムコ大館GGPセンター、全農畜産サービス(株)由利本荘SPF豚センター、全農畜産サービス(株)秋田大仙SPF豚センター、宮城県・(株)シムコ岩出山事業所、茨城県・(有)中村畜産、全農飼料畜産中央研究所、同実験動物豚舎、千葉県・(株)シムコ館山事業所、鈴木治彦養豚、(株)スターピッグファーム、飯田養豚、(有)ピギー・ジョイ第2農場繁殖農場、同肥育農場、(有)伊藤養豚飯岡農場、

※次回認定委員会は2022年6月2日(木)の予定

(有)楠木ピッグファーム、宝理養豚繁殖農場、同肥育農場、長野県・(農)エスピーエフこがねや第二農場、JA全農長野SPF繁殖センター、JA大北白馬アルプス農場、富山県・(株)シムコ八尾GGPセンター、愛知県・(株)知多ピッグ前山農場、同美浜農場、熊本県・全農畜産サービス(株)西日本原種豚場、(有)やまとんファーム、(有)ピッグファーム陳、(株)佐々牧場、同第二農場、宮崎県・(株)ナンチクファーム守山細田農場、(以上30農場)

協会からのお知らせ

●理事会を開催しました

3月25日(金)、KKRホテル東京「白鳥の間」において、令和3年度の理事会を開催いたしました。新型コロナウイルス感染対策を徹底し3密にならぬよう広めの部屋を準備し、リモートによる参加にも対応いた

しました。6月の代議員会(6月17日を予定、代議員の皆さまには改めてご案内いたします)に諮る議案等について協議いただきました。

寄稿

「ある蝶の話から」

伊藤忠飼料(株)元執行役員

小林一彦



昨年の秋、散歩の途中でけっこう大柄な蝶を見つけました。それはちょっとアサギマダラのように見える綺麗な蝶でした。アサギマダラはその名の通りとても淡い藍色「浅葱」を黒や茶で縁取った綺麗な翅と黒に白いドット「まだら」の頭と胸を持つ蝶で、長距離を旅することでも知られています。東京では高尾山などで見ることはできますが、平地でみることはありません。

しばらく見ているとアサギマダラほどふんわりと飛ばず、翅の模様も少し派手な感じがします。しっとりした和装というより洋装の佇まいです。垣根のヒイラギに止まったところを近づいて写真に撮りましたが、初めて見る蝶でした。

蝶マニアではないので、さっそくネットで「アサギマダラに似た蝶」と入れると一発で同じ蝶の写真が出てきました。それは「アカボシゴマダラ」という中国やベトナムあたりを原産とする特定外来生物に指定されている蝶で、おそらく誰かが意図的に放ったためここ15年ほどで関東を中心に生息域を広げていると書いてありました。

不思議なことにそんな正体だと分かったとたん、これまで見たこともない蝶を見たというちょっとしたいいい気分はすっかり冷めてしまいました。

異国の地に放たれ、それでも懸命に子孫を残そうとしてきたのに、特定外来生物という「有り難くないもの」として扱われる「アカボシゴマダラ」は気の毒ですし、「特定外来生物」と聞いただけでバイアスが掛かって見えてくる自分には少し情けない気がしました。

冷めてしまったもう一つの理由は、やはり豚熱を思い起こさせたか

らです。

豚熱は、この蝶のように人の身勝手に意図的に持ち込まれた訳ではないと思いますが、何らかの理由でイノシシのいる環境にウイルスを含む物が持ち込まれ、さらにコントロールの難しいイノシシに感染し、その感染の拡大と共に時に豚にも感染しています。現在も東北地方などへ広がり、大変深刻な状況にあることはご承知の通りです。

意図的か否かは別としても海外から病原体が持ち込まれ、さらに野生動物にそれが広まると如何に厄介な事になるのか我々は十分に承知しています。今は、海外からのヒトの動きはかなり制限されていますが、新型コロナも一定の収まりをみせれば以前ほどではないにしろ、また世界中から人がやって来るでしょう。その時にさらに始末の悪いものが持ち込まれて広がることがないように、まず水際防疫がこれまでも増して厳重に行われるよう改めて期待するものです。

養豚に関わる皆様は、毎日大変な緊張感を持って地域や農場の防疫にあたられていることと思います。無事な毎日が明日も続くためには、そこに合理的な拠り所がなければなりません。これまで大丈夫だったからこれからも、という理由の明らかでないものは単に期待です。そのようなバイアスは払拭し、状況の変化に常に正しく対処して参りましょう。

新型コロナとはしばらく折り合いをつけながら過ごさざるを得ないでしょうが、養豚界にはこれ以上新たな厄介ものの侵入を許さず、養豚家の皆様が安心して安定生産が続けられることを切に願っております。

編集後記

豚熱の防疫は指導されているワクチン接種プログラムと衛生管理基準の遵守で完結と言えるのでしょうか。さまざまな防疫手段・設備・道具の組み合わせを編み出す必要があります。今実行されている対策について問題点を洗い出し、一方向からだけ考えるのではなく、各専門家を交えた、スピーディーで本気度の高い解決姿勢が大切なのではないでしょうか。

事務局の都合により今号の発行が遅れ、執筆者、関係各位および読者の皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。(世)。



日本SPF豚協会認定農場産シール

このマークは

日本SPF豚協会の

登録商標です

日本SPF豚協会だより

第 87 号 2022 年 4 月 1 日発行 (季刊)

発行 〒 101-0032 東京都千代田区岩本町 1-8-2

TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376

e-mail:j.spf.a@nifty.com

http://www.j-spf.com/

発行人 北島 克好

編集人 藤田 世秀